

## 「天国にはいる者」

マタイによる福音書 第18章 1節～5節

説教 岡村 恒 牧師

主イエス・キリストが、ご自身の受難、つまり律法学者たちに苦しみを受け、十字架に架けられて殺されるという物騒な話を始められた時、弟子ペテロは、主イエスを脇へ引き寄せ「そんなことがあってはなりません。」(16章22節)といさめました。主イエスは、神がなさろうとしている救いのご計画を全く理解できないペテロに向かって、「サタン、引き下がれ(私の前に立つな)。(同23節)とお怒りになりました。

弟子たちは、死と復活の預言を少しも理解出来ないだけでなく、主イエスのところに来て、「いったいだれが、天の国でいちばん偉いのでしょうか」(1節)と尋ね始めました。最初から主イエスに選ばれ、ずっと従ってきた12人の弟子たちは、後から来た他の弟子たちよりも主イエスキリストに近く、ずっと偉いと自他共に認める存在だったのかも知れません。主イエスに認められ、評価されたいと真剣に考えていたのでしょうか。人にどう見られているか、人にどう評価されているか、自分がする評価と他人の自分に対する評価がどんなに違っているのか気になってしょうがない、それが私たちの実体です。

主イエスは、神との関係においても同じように惑い、悩み、心配をする弟子たちのために、おそらく弟子たちの視野にさえ入っていなかった一人の子供を呼び寄せて、真ん中に立たせてこう言われました。「はっきり言うておく。心を入れ替えて子供のようにならなければ、決して天の国に入ることはできない。」(3節)目の前に主イエスと幼子がいます。主イエスのことを理解出来ず、その言葉を受け入れることが出来ず、思い違いをして、自分の思いで主イエスに問いかける弟子たちに、「心を入れ替えて」と主イエスは言われました。しかし、神の前でさえ、人と自分を比較して優劣をつける思い違いから脱して、自分の力で「心を入れ替える」ことなど私たち人間には出来ません。まして、当時は最も小さく無視され忘れ去られる存在であった子供のようになることなど不可能です。ただ神の恵み、奇跡として、神が心を新しく作り変えて下さるのでなければ、心を入れ替えて子供のようになることなど誰にも出来ないのです。

全世界をお創りになり支配しておられるまことの神が、私たち一人一人のことをご覧になり、認め、受け入れ、それどころかかけがえの無い

存在として愛して下さっている、と聖書は全巻を通して私たちに語りかけます。神は、御子イエス・キリストを与え尽くすほどに私たちを愛し通して下さっています。この事実の前で、私たちは初めて、あの弟子たちと同じ思い違いから解き放たれます。聖霊に導かれて、イエス・キリストを信じる信仰を与えられた時、自分が神の前でどれほど小さな存在かを思い知る時、私たちは身を小さくされます。自分を低くして、この子供のようになることを許されるのです。

主イエスは「わたしの名のためにこのような一人の子供を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。」(5節)そう続けて言われました。この「受け入れる」という言葉は『手を前に伸ばす』という意味合いの言葉だと言われます。幼い子供が、親の腕の中に飛び込んでいく時のように、手を前に伸ばして、主イエス・キリストを受け取って良いというのです。主は、『私を信じて、深く結びつけられて生きたら良い、天国に入る者として地上を歩んだら良い』と私たちを確かな救いへ招いておられます。

先週、私たちの群れの愛する姉妹が、93年の地上の旅を終えて眠りに就きました。戦後間もない若い日に、聖書の御言葉に出会い、導かれて洗礼を受けられました。のちに、大阪教会の忠実な枝として、65年にわたって、主の御言葉を聞く礼拝を大事にして過ごされました。やがて、礼拝に来ることが困難になった時も、神の御言葉を聞き、特に教会学校の子供たちのために祈ることをおやめになりませんでした。病床をお訪ねして、「たといわたしは死の陰の谷を歩むとも、わざわざを恐れませんが、あなたが私と共におられるからです。」(口語訳聖書 詩篇23篇 4節)と、神に一切を委ねる詩編をお読みしてお祈りをしました。そのしばらくのちに、息を引き取られた姉妹の信仰者の姿に、神の恵みの奇跡を見せていただいた思いがします。

神によって選び取られ、信仰を与えられ、幼子のように全身全霊を神に委ねて、その御腕に飛び込んで生きる者は幸いです。主イエスに深く結びつけられた者は、ただ神の約束によって、命を支えられて、神の前で尊いものとして作り変えられて、神の国にはいることが出来るのです。

(記 説教要約奉仕者)